

令和7年度

学校評価報告書



綾瀬市立土棚小学校

※アンケートについて

- ・令和7年12月、1年生から6年生の児童、教職員を対象に実施しました。保護者からは、140名分の回答がありました。
- ・グラフ中の数字は、百分率であらわした数字です。

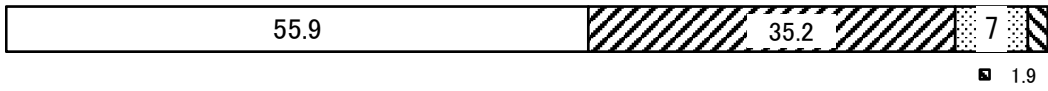
□そう思う ▨ややそう思う ■あまりそう思わない ▩そう思わない ■わからない

1 学校は、「よく考える子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。

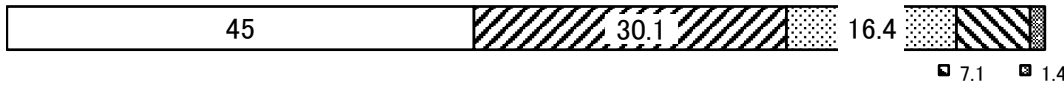
学校の取組

本校の学校教育目標は「よく考える子になろう」「ねばりづよい子になろう」「じょうぶな子になろう」「思いやりのある子になろう」です。その具現化を図るため、「自分の考えを持ち、前向きに取り組む子の育成～『視覚化』の手立てを中心とした授業づくり～」というテーマのもとに校内研究に取り組んでいます。令和6年より2年間の綾瀬市教育委員会研究指定校の指定を受け、算数における「授業のユニバーサルデザイン化」を授業改善の視点とし、『視覚化』に重点をおいて授業づくりをすることで子どもたちの理解が深まるのではないかと考え、すべての児童が楽しく「わかる・できる」授業づくりや共に学び合う力の育成を目指しています。

児童 設問 「勉強や宿題などをすすんでがんばっていますか。」



保護者 設問 「子どもは、宿題や家庭学習に取り組んでいる。」



教職員 設問 「基礎的・基本的な内容の定着を図り、学力の向上に努めている。」



今後に向けて

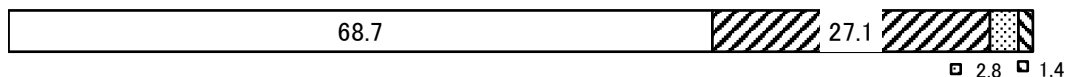
土棚小学校では、「学校として育成を目指す資質・能力」として目指す児童像を【丁寧に取り組む力】、【とことん考える力】、【一步踏み出す力】と設定しています。アンケートでは、意欲を持って学習に取り組んでいると回答した児童が、昨年度と比較すると1割以上増え、全体としては約9割の児童が意欲的に取り組んでいます。校内研究を中心とした授業改善では、今年度2年間の指定研究の本発表を行いました。教職員の学力向上に努める意識も児童と比例して「そう思う」と回答した割合が1割増えています。教科の特性としての既習事項を使って新たな課題に向かう流れを踏まえ、より一層基礎・基本の定着を図るとともに児童の学習意欲を高める工夫に力を入れていきます。また、学力の下支えとなる豊かな体験、経験が学校生活の中でできるよう年間計画等を考えていきます。

2 児童は、学校行事に積極的に参加している。

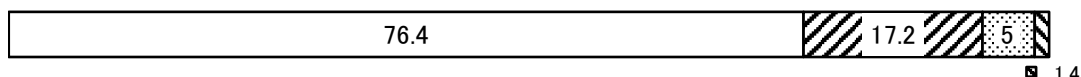
学校の取組

本校では、学校行事を行うにあたり児童の実態を考慮しながら全職員で行事のねらいを確認し実施しています。また、それぞれの行事等において児童一人ひとりのめあてを明確にし、主体的に取り組めるようにしています。児童が行事を通して「何を学んだのか」という振り返りを大切にし、学んだことをその後の生活にどのように生かしていくのかを考えられるよう取り組んでいます。

児童 設問 「学校行事(運動会・音楽集会など)に積極的に取り組むことができましたか。」



保護者 設問 「子どもは、学校行事(運動会・遠足など)を楽しみにしている。」



今後に向けて

アンケートから児童が学校行事に意欲的に取り組んでいる様子がわかります。児童が集団生活の中で自らめあてをもって取り組むことを大切にし、積極的に取り組むことができなかつたと思っている児童も、達成感が味わえ生き生きと活躍できるように、今後も学校行事への取り組み方を工夫していきます。また、それぞれの行事を通して身に付いたことは何かを明確にするとともに、児童自身がそれらを生活やこれからの人生に生かしていけるように努めていきます。

3 学校は、「思いやりのある子」を育てるために工夫や改善に取り組んでいる。

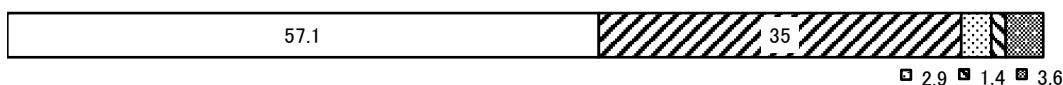
学校の取組

本校では、学校教育目標のひとつ「思いやりのある子」の育成のために目指す資質・能力として【丁寧に取り組む力】に重点をおいています。挨拶や礼、友達や先生との接し方、自己を取り巻く環境や物の扱い方など、日常生活を通して指導を行っています。また、道徳教育、福祉体験、ショート学活等を中心とした全教育活動で「思いやり」の心を育てる取組を行っています。

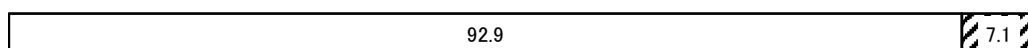
児童 設問 「学習やそうじなどの時、協力したり、相手の気持ちを考えたりして学校生活を送ることができましたか。」



保護者 設問 「子どもは、友だちと仲よく生活している。」



教職員 設問 「児童同士のよりよい人間関係づくりに努めている。」



今後に向けて

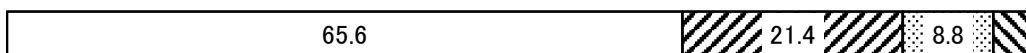
多くの児童が、学校生活の中のいろいろな場面で友達と協力し、相手の気持ちを考えられていると回答しています。道徳教育、福祉体験、ショート学活等を中心とした全教育活動において、今後も思いやりのある行動を認めたり褒めたりしながら、全ての児童のよりよい変容を促していきます。相互の温かな人間関係を育み、自分の周囲にある環境や物に対しても丁寧に接していく気持ちを育てていく心の教育に一層取り組んでいきます。

4 児童は、満足して学校の生活を送っている。

学校の取組

本校では、児童が互いを認め合い、温かな人間関係を育む学校づくり、学級づくりに努めています。全職員による全教育活動での見取りを基本とし、毎月1回のスクールアンケートを行い、児童の変容について分析しています。また、それらを活用していじめの早期発見・再発防止、児童理解に努め、児童が良好な友達関係を作れるように支援しています。学校が児童にとって居心地がよく、安心して自分の思いを表現できる場であることを前提として、そこで充実した活動ができるように、教職員は児童の気持ちに寄り添って、共に考えるようにしています。

児童 設問 「学校は、楽しいですか。」



□ 4.2

今後に向けて

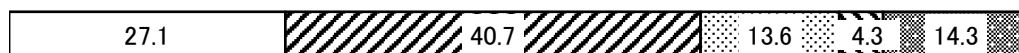
児童の8割以上が「学校が楽しい」と回答し、学級や学校で楽しく生活していると考えられます。その一方で、学校生活を楽しくないと感じている児童が1割以上います。今後も支援体制の更なる充実を図りながら、児童を取り巻く人間関係に職員全体で注視するとともに、それぞれの児童の思いを受け止めて、見守り、一人ひとりの個性を大切に、お互いを認め合える関係づくりをしていきます。

5 学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。

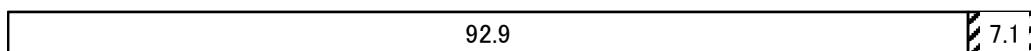
学校の取組

本校は、児童一人ひとりの友達関係の悩みやいじめを早期発見するために、毎月スクールアンケートを実施しています。困り感を抱えている児童がいた場合は、すぐに児童から個別に話を聞くなど、迅速かつ適切な対応に努めています。また、長期休業前には「かながわ子どもサポートドック」のアンケートとスクリーニングシートを活用して、子どもの困難を確実にキャッチできるように努めています。日ごろから職員全体で児童の様子について情報共有したり、いじめ防止対策委員会（月1回）で意見交換したり、よりよい解決方法や今後の指導の在り方、再発防止に取り組んでいます。

保護者 設問 「学校は、仲間づくりに取り組み、いじめの未然防止に努めるとともに、月1回のスクールアンケート等をもとにいじめの早期発見・早期対応に努めている。」



教職員 設問 「いじめの早期発見をし、再発防止に努めている。」



今後に向けて

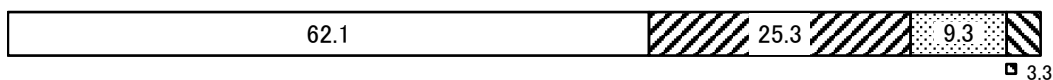
いじめの早期発見を目的として、毎月行うスクールアンケートのほか、いじめ防止対策委員会、児童指導グループの取組等、学校が行っている指導や取組があります。スクールアンケートでは、嫌な思いをした、嫌なことをされている人を目撃したなどの記入があった場合や、学校が楽しくないと感じている児童がいた場合などは、担任が聞き取りをして、早期対応に努めています。アンケートから、教職員のいじめの早期発見・再発防止への取組の意識が高い半面、保護者の方への周知が不十分であることがわかります。学校だより等を中心に児童や保護者が安心して話ができる環境づくりを行っていることや、不安や悩みに応じるスクールカウンセラーの存在、常に教育相談に応じていること等を重ねて周知していきます。全教育活動を通して「思いやりの心」を育むとともに、いじめの未然防止に努め、一人ひとりが大切にされる学校・学級を目指していきます。

6 学校は、心と体の健康な子を育てるために工夫や改善に取り組んでいる。

学校の取組

本校では、異学年で行うふれあい活動を中心として、豊かな人間関係づくりに努めています。1班20名程度の1～6年までの縦割りグループで、年間10回程度、遊びを通して関わり合う活動をしています。ふれあい班での遊びの活動は、学年間の交流や健康づくりの場となっています。また、6年生が中心となって遊びの計画や準備をしたり、進行をしたりすることを通し、高学年としての自覚やリーダー性も育っています。また週1回のロング昼休みには外遊びを基本とし、児童の健康づくりに努めています。

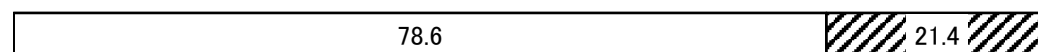
児童 設問 「ふれあい活動は楽しいですか。」



保護者 設問 「子どもは、ふれあい活動(ふれあいデー)を楽しみにしている。」



教職員 設問 「子ども同士のかかわりを深めるような取組をしている。」



今後に向けて

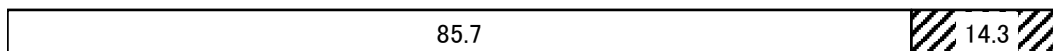
ふれあい活動は児童の多くが楽しみにしている活動です。どの学年でも楽しく遊べるよう、互いに思いやりの気持ちをもちながら、様々な遊びを通して活発に交流するほほえましい姿が見られます。グループでの活動をすることで、学級以外での所属感を高め、自己肯定感を高めていくことにもつながります。今後もこの活動だけでなく、日々の児童の健康状態の把握を基本とし、体力の向上を目指すとともに、スクールカウンセラーとの連携等を行いながら児童の健康を目指し、心と体のバランスを整えています。

7 学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。

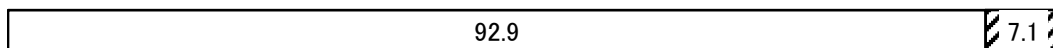
学校の取組

本校では、全職員の共通理解のもと日頃から安全に気を配り、毎月1回、学校施設・設備等の安全点検・整備に取り組んでいます。また、登下校時にはボランティアや地域の方々に児童の見守りをしていただいています。避難訓練では、実情に沿って地震や火災の想定を毎年見直し、児童とともに一斉訓練を実施することで一人ひとりの危機意識を高めています。また、不審者が侵入した際の避難の仕方についても毎年訓練を行い、指導しています。

教職員 設問 「児童の安全のための指導に取り組んでいる。」



教職員 設問 「児童が安全に過ごせるように施設・設備の点検・整備を定期的に行っている。」



今後に向けて

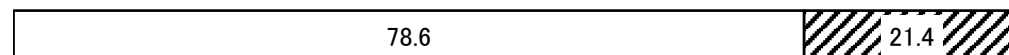
教職員が意識を高くもって、児童の安全のための指導や施設等の点検・整備に取り組んでいます。児童を取り巻く社会環境の変化や近年の自然災害の甚大化を踏まえ、大地震を想定した震災に対する備えや不審者対応等、学校が意識を高く持って丁寧に取り組むべきと考えます。現状の「火災や地震を想定した避難訓練」「児童に予告せずに行う避難訓練Xday」「不審者侵入時の避難訓練」「緊急一斉下校訓練」「防災引き渡し訓練」「あんしん教室」等を実施して、危機管理意識を高めていきます。また、ボランティアや保護者の方々の協力を得ながら、登下校の見守りなど、児童の安全対策について取り組んでいきます。

8 学校は、一人ひとりの児童に応じた支援の工夫をしている。

学校の取組

本校では、児童一人ひとりの特性・実態に応じた支援を行うため、毎週児童指導・支援会議を開き、情報共有を行っています。児童指導支援総括教諭や教育相談コーディネーターが外部機関とも連携を図りながら、より効果的な支援を行えるよう検討しています。また、ケース会議等を行い、スクールカウンセラー・学習支援者などの協力を得て、児童一人ひとりの実態に即した支援を行えるよう努めています。昨年度よりサポートルームが開設され、様々な理由により教室になかなか入ることができない児童の支援をしています。教室に入る前にサポートルームで落ち着いたり、保護者と離れられない時に教室まで一緒に行ったりと専任の担当者が対応しています。

教職員 設問 「一人ひとりの児童に応じたきめ細かな支援の工夫をしている。」



今後に向けて

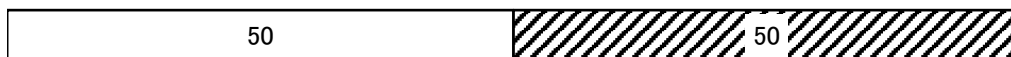
全ての教職員が一人ひとりの実態把握に努め、個々のニーズに応じた支援の工夫を行っています。今後も、児童の困り感や保護者の教育的ニーズに寄り添いながら個に応じた支援の充実に向けていきます。また、担任が一人で対応するのではなく、児童指導総括教諭を中心に関係者とケース会議を開いたり、いじめ防止対策委員会において事案に応じた適切な対応を検討したりするなど、組織で対応する事を基本とし、他機関とも連携しながらより効果的な支援を検討し、取り組んでいきます。

9 校長を中心とした運営組織になっている。

学校の取組

本校では、校長のリーダーシップのもと、総括教諭を中心として4つのグループに分かれ、学校教育目標、学校経営方針、育成すべき資質・能力、目指す児童像の具現化を図っています。それぞれのグループが責任をもって、学校運営上の業務や課題に取り組んでいます。

教職員 設問 「校長の経営ビジョンを受け、各グループの役割が明確であり、有効に機能している。」



今後に向けて

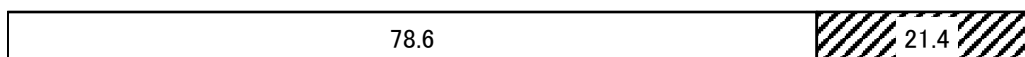
学校運営について総括教諭を中心として各グループで企画・立案されたものが、企画会議、職員会議を経て実践されています。今後もそれぞれの所掌事項において新たな課題を見出し、改善に向けて計画を立てるというサイクルを徹底し、よりよい学校となるよう取り組んでいきます。また全職員が共通理解のもと教育活動を行うことができるよう、職員各々が担当している行事や取組を学校教育目標及び重点目標と照らし合わせ、各グループでよく話し合いを進めています。引き続き組織が有効に機能することを目指し、グループ間の連携を深めて学校運営上の課題解決に向け、全職員が一丸となって取り組んでいきます。

10 学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。

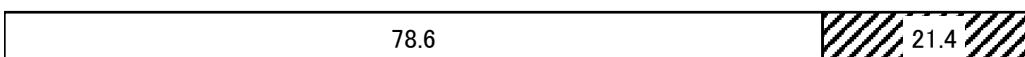
学校の取組

本校では、教職員の力量を高めるため様々な取組を行っています。職員研修では、道徳や外国語、情報教育、特別支援教育、実技指導等、様々な研修に励んでいます。また、校内研究では外部から講師を招き、研究テーマに深く関わる「授業のユニバーサルデザイン化」について授業研究、協議会を行っています。さらに、校外の研究発表会や研修会に参加し、資料の回覧や研修報告を通して情報の共有化を図っています。

教職員 設問 「授業改善を意識した校内研究に取り組んでいる。」



教職員 設問 「指導力向上に向けた研修に努めている。」



今後に向けて

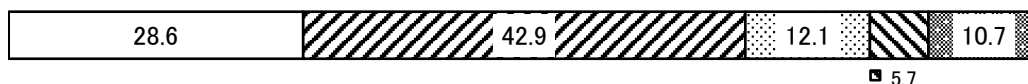
全ての教職員が、丁寧に取り組み、とことん考え、一歩踏み出す力の育成に努めていきます。教職員として、目まぐるしく変化する『社会から求められる力』変わらず求められる『基礎的・基本的な力』を身に付けられるよう、校内研究・研修を通して指導力向上を目指し、取り組み続けていきます。また、あらゆる教科学習において今までの研究を更に深化させ、今後も質の高い授業改善に取り組んでいきます。

1 1 学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。

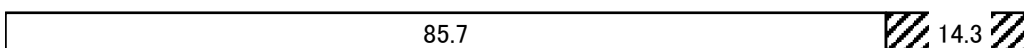
学校の取組

本校では、毎月の職員会議において学年・学級の児童の様子について細かく情報交換を行い、児童指導に役立てています。情報を共有することで、より深く児童の実態を知ることができ、組織としての適切な指導につながるものと考えます。すべての児童をすべての教職員で育てる観点をもち、児童全体への指導の在り方についても、その都度全職員で共通理解できるよう努めています。

保護者 設問 「学校は、子どもたちの日常の様子に気を配り、よい点を認め伸ばす努力をしている。」



教職員 設問 「児童理解に努め、個に応じた指導をしている。」



今後に向けて

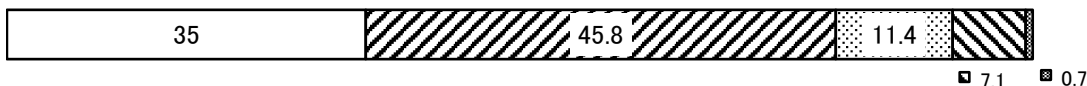
アンケートでは、約7割が肯定的な評価になっていますが、そうでない評価もあります。今後もより一層児童の実態や課題の把握に努め、共通理解のもと教職員一丸となって、児童が有意義な学校生活を送れるよう指導にあたっていきます。また、学校・家庭・地域の連携についても改善の視点をもち、児童のよりよい成長につながるよう努めていきます。

1 2 学校は、保護者等に適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。

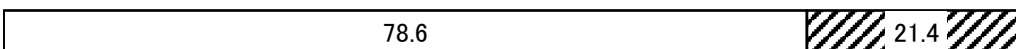
学校の取組

本校では、保護者や地域の方に学校の様子を知らせ、理解を得ることがよりよい学校づくりに欠かせないものと考えています。学校・学年だより、保健だより等で学校の様子を知らせ、学校の教育活動を伝える努力をしています。また、地域の方や様々なボランティアの方々と協力し合いながら、児童の健全な育成を図るよう努めています。

保護者 設問 「学校の様子を、懇談会や学校・学年だより等で知ることができる。」



教職員 設問 「懇談・訪問・相談・便り・電話連絡等で、家庭とのきめ細やかな連携を図っている。」



今後に向けて

登下校の見守り、子どもたちへの読み聞かせ、花壇をきれいにしていただくなど、たくさんの方のボランティアの方が学校に協力してくださっています。今後も様々な形で学校のことを理解してもらえるように、学校と保護者、地域との連携の推進、また学校からの情報発信の工夫に努め、各種たよりや授業参観・懇談会、学校、学年行事を通して児童の学習や活動の様子を伝えていきます。また、児童一人ひとりの様子を把握し、家庭とのきめ細かな連携を図り、安心して学校生活を送れるようにしていきます。コミュニティ・スクール制度の活用についても検討し、保護者や地域の方に学校をもっと知ってもらい、また協働しながらより豊かな教育活動が行えるよう努力していきます。